

THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

# 日本農業新聞

発行所 日本農業新聞  
〒110-8722 東京都台東区秋葉原2番3号



©日本農業新聞2008

2008年 (平成20年)

8 | 22

金曜日

## 四季

子どもたちの小さな田んぼの稲穂は出そろっただろうか。JA全中が行っているバケツ稲配布は事業開始から20年を迎え、今年は過去最高の80万トンになった▼申し込みは全都道府県から

あるが、やはり大都市圏の関心が高い。はらはらしながら稲の成長を見守る子どもたちの様子が目に浮かぶ。過去の感想文や問い合わせを見ると、感動が大きいのは開花、喜びは当然、収穫だ▼東京・六本木のビルの屋上には、バケツならぬ木製の「酒樽稲」が並ぶ。アートディレクターの水谷孝次さんが主宰するメリープロジェクトが東京農大の指導で育てている。品種の数なんと23。アジア各国の品種やアフリカのネリカ稻もある▼水谷さんはこれまでに世界2万人以上の子どもの笑顔を撮影、作品は北京五輪の開会式にも使われた。屋上農園は世界の子どもたちを飢えから救おうという行動の一つ。そして日本の子どもたちには「もっと農業や林業のことを知ってもらいたい」という▼インターネット事業「ハッピーライス」にも協力している。漢字クイズに答えて1問正解するごとに「地球のハラペコを救えキャンペーン」を通じて米50粒が寄付できる。費用は広告で賄う仕組み。子どもたちはバケツ稲を育て、漢字を覚えて、米1粒の重さを知る。